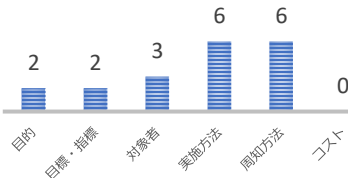


住宅費に関する改善プログラム（概要）

部課名	都市づくり部住宅課	評価人チームの評価結果			
目的	誰もが安全・安心に長く暮らせる、豊かで快適な居住環境の確保	総合評価	一部改善すべき	改善すべき項目	
キーワード	団地の再生				
キーワードに関する取り組み概要	・UR都市機構6団地、JKK東京7団地を対象として、主に機運醸成のためのイベントなど、団地再生の支援を行う。	総合意見	・団地のコミュニティの活性化のため、魅力的なイベント、多世代交流や異文化交流を戦略的・効果的に実施するとともに、団地の活動をより多くの方に興味を持ってもらうため、SNSを活用するなど、対象者に合わせて効果的に情報発信してほしい。 ・団地の事業者や居住者等と密接に連携して団地ごとの再生の方向性を構築するとともに、その実現に向けて団地事業者と協力し、民間企業や大学等との連携を強化することにより、地域のプロジェクトとして推進してほしい。		

評価人チームの主な意見と事業所管課の改善に向けた主な取り組み

【議論のポイント1】 団地のコミュニティの活性化について		【議論のポイント2】 魅力ある団地の仕組みづくりについて	
 評価人チーム	団地コミュニティの活性化につながる取り組みを戦略的・効果的に実施してほしい。	 評価人チーム	団地の事業者や居住者等と密接に連携し、団地再生の取り組みを地域のプロジェクトとして推進してほしい。
 事業所管課	子どもから高齢者まですべての世代が楽しみながら団地に親しみが持てるようなイベントを、民間企業と連携して実施します。また、学生が日頃の学習で学んだ知見を実践・発表できる機会を提供します。	 事業所管課	団地事業者であるUR都市機構やJKK東京、各団地の商店会等による個別の取り組みを共有する体制を新たに構築します。また、木曽山崎団地地区のまちづくり構想について、多摩都市モノレールの延伸など、今後の環境変化を踏まえた内容に改定します。

【議論のポイント1】団地のコミュニティの活性化について

評価人チーム の意見	事業所管課の 改善の方向性	団地のコミュニティの活性化のため、魅力的なイベント、多世代交流や異文化交流を戦略的・効果的に実施するとともに、団地の活動をより多くの方に興味を持ってもらうため、SNSを活用するなど、対象者に合わせて効果的に情報発信してほしい。 （改善すべき項目：対象者/実施方法/周知方法） ＜評価人からの提案＞ ・イベントの実施や多世代交流など、コミュニティ再生の取り組みをより戦略的・効果的に実施していく必要があるのではないか。 ・イルミネーションなどの写真映えるイベントや若者が興味を持てるイベント、高齢者と若者が交流するイベントを増やせるとよいのではないか。 ・団地のコミュニティが世代ごとに分断されていると感じるため、誰でも使えて交流できるスペースをつくるとよいのではないか。 ・多世代交流の中で要となる子育て世代や学生などとの連携をもっと進められるとよいのではないか。 ・留学生に団地に住んでもらうなど、多世代交流だけでなく異文化交流も進められるとよいのではないか。 ・団地の活動について、若い人に興味を持ってもらえるようにSNSの周知方法を見直す必要があるのではないか。	・民間企業や近隣大学との連携による団地のコミュニティの活性化に関する取り組みを検討する。 ・団地の活動をより多くの方に興味を持ってもらうため、団地再生に関する情報の発信を強化する取り組みを検討する。

No	事業所管課の 改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値 （時点）	目標値 （時点）	実績値 （時点）	取り組み内容 （2023年度）	取り組み内容 （2024年度）
①	【「コミュニティ型生活サービス拠点」を活用した民間企業との連携によるイベントの実施】 2023年5月に町田木曽住宅内に開所を予定しているコミュニティ型生活サービス拠点※のコミュニティスペースを活用し、民間企業と連携した子どもから高齢者まですべての世代が楽しみながら団地に親しみが持てるようなイベントを実施するとともに、市の公式SNSなどで周知する。 ※コミュニティ型生活サービス拠点：コミュニティスペースが併設された、民間企業による買い物支援や家事代行等の生活サービスを行う施設	民間企業との連携による団地活性化イベントの実施	－ （2023年3月）	実施 （2023年5月）	実施 （2023年5月） 【改善済み】	JKK東京、ヤマト運輸株式会社と市が協力し、2023年5月25日から28日までの4日間、コミュニティ型生活サービス拠点「ネコサポステーション町田木曽」のオープニングイベントを開催した。イベントでは、子どもの宅急便配達体験会や、高齢者が椅子に座ったままできる体操教室など、すべての世代が楽しめるコンテンツを実施し、延べ約1万人が来場した。また、開催に向け、X（旧Twitter）の市公式アカウントなどで積極的に周知した。	2023年度で改善済み
②	【「コミュニティ型生活サービス拠点」を舞台にした近隣大学との連携による取り組みの実施】 町田木曽住宅内に開所を予定しているコミュニティ型生活サービス拠点において、近隣大学の学生が日頃の学習で得た知見を実践・発表できる機会を提供する。	近隣大学との連携による取り組みの実施	－ （2023年3月）	実施 （2025年3月）	実施に向けた検討 （2025年3月） 【改善済】	2023年5月にオープニングイベントを開催し、近隣大学である桜美林大学学生による器楽演奏会を開催し、団地住民をはじめとした多くの聴衆が集まった。また、団地事業者が主催するイベント等においても近隣大学のサークルと協働することができた。	2023年度で改善済み
③	【小山田桜台団地の団地事業者等と連携した団地活性化イベントの実施】 これまで市と団地事業者等が連携したイベントを実施していなかった小山田桜台団地において、団地居住者や地域住民が団地の魅力を実感できるイベントを実施する。	小山田桜台団地での団地活性化イベントの実施回数	0回 （2023年3月）	1回 （2024年3月）	1回 （2023年9月） 【改善済み】	小山田桜台団地において、2023年9月16日に、市とUR都市機構の共催で「小山田桜台団地 PLAY DAY!」を開催した。 イベントでは、楽しみながら団地内を巡る「緑日キーワードラリー」や、団地の部屋を内覧できるコーナーなど、団地の魅力を実感できる取り組みを実施し、延べ約400人が来場した。	2023年度で改善済み

【議論のポイント1】団地のコミュニティの活性化について

No	事業所管課の 改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	取り組み内容 (2023年度)	取り組み内容 (2024年度)
④	【団地再生に関する情報発信の強化】 団地再生に関する情報を掲載した市ホームページを閲覧した方が、各団地の概要を分かりやすく把握できるようにするために、所在地など団地のプロフィールを団地ごとに整理する。 また、UR都市機構、JKK東京や各団地の商店会等が個別に行う取り組みも含め、情報をもれなく掲載するよう見直す。	団地再生に関する市ホームページの見直し	－ (2023年3月)	見直し (2024年3月)	見直し (2024年3月) 【改善済み】	団地ごとのプロフィール（概要や所在地等）や、UR都市機構、JKK東京や各団地の商店会等が実施する取り組みなどを、分かりやすく、また、もれなく掲載するよう、団地再生に関する市ホームページを見直した。	2023年度で改善済み

【議論のポイント2】魅力ある団地の仕組みづくりについて

評価人チーム
の意見

団地の事業者や居住者等と密接に連携して団地ごとの再生の方向性を構築するとともに、その実現に向けて団地事業者と協力し、民間企業や大学等との連携を強化することにより、地域のプロジェクトとして推進してほしい。
（改善すべき項目：目的/実施方法）

＜評価人からの提案＞

- ・団地再生は市だけで行うことはできないため、市は団地事業者であるUR都市機構・JKK東京と協力し、団地居住者はもとより市民、民間企業、大学等との連携を強化することにより、地域のプロジェクトとして推進していく必要があるのではないか。
- ・町田市の顔としての団地の魅力が高まるように、団地事業者や団地居住者等と密接に連携して団地ごとの再生の方向性を構築し、その実現に向けて積極的に関わっていく必要があるのではないか。

事業所管課の
改善の方向性

・団地再生に向けて、団地の事業者や居住者等と連携して取り組むための仕組みや、団地再生の方向性を構築する取り組みを検討する。

No	事業所管課の 改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値 （時点）	目標値 （時点）	実績値 （時点）	取り組み内容 （2023年度）	取り組み内容 （2024年度）
①	【団地再生に関する情報発信の強化に向けた団地事業者との情報共有体制の構築】 議論のポイント1の④【団地再生に関する情報発信の強化】に掲げた取り組みを実現するためUR都市機構、JKK東京や各団地の商店会等が個別に行うイベント等に関する情報を共有する体制を構築する。	情報共有体制の構築	－ （2023年3月）	構築 （2024年3月）	構築 （2023年5月） 【改善済み】	UR都市機構、JKK東京や各団地の商店会等が個別に行うイベント等に関する情報を、市と共有し、ホームページ等で発信できるよう、鶴川団地と木曽山崎団地において、情報共有のための共通様式を作成し、2023年5月に運用を開始した。 今後、市内全団地における運用を開始する予定である。	2023年度で改善済み
②	【団地間の情報共有の推進】 各団地の自治会役員や関係者等が、困りごとの共有や成功している取り組みの共有を通じて、交流を深めることができるよう、意見交換の場を設ける。	（仮称）団地連絡会の開催	－ （2023年3月）	開催 （2024年5月）	開催に向けた各団地との調整 （2024年5月） 【改善済み】	「（仮称）団地連絡会」の開催に向け、団地自治会と、困りごとや成功している取り組みについて、意見交換を行った。 今後は、団地間の交流を深めることができるよう、「（仮称）団地連絡会」の開催に向け、調整を進める。	JKK東京の団地自治会が定期的に行っている会議に出席し、団地内の困りごとや対策例などについて共有されていることを確認した。また、UR都市機構にもほぼ同様の会議体が存在していることを確認した。市が呼びかけなくてもそれぞれ団地自治会の連絡会議が定期的に行われており、情報交換や共有がなされていることが分かった。
③	【団地活性化に取り組む組織の立ち上げ支援】 木曽山崎団地地区にある団地の魅力向上のため、民間企業や地域の活動団体が主体となり、イベントなど団地活性化の取り組みを行う新たな組織の立ち上げ支援を行う。	組織の立ち上げ	－ （2023年3月）	立ち上げ （2025年3月）	立ち上げに向けた調整 （2025年3月） 【改善進行中】	新たな組織の立ち上げに向け、関係部署と調整したが、民間企業や地域の活動団体への働きかけには至らなかった。 引き続き、関係部署と連携しながら、担い手の候補となる活動団体等との調整を進める。	UR都市機構が毎年開催しているDANCHIキャラバンは地元のアーティストや店舗などの参加団体が増えている。また、2024年度からは、「まちやままるごとスコアレ」を開催し、地域コミュニティの活性化を目指しつつ、若者世代に訴求できる担い手の発掘を行っている。今後とも、UR都市機構と連携し、団地活性化の取り組みを行う新たな組織の立ち上げに繋がるよう支援を行っていく。

【議論のポイント2】魅力ある団地の仕組みづくりについて

No	事業所管課の 改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	取り組み内容 (2023年度)	取り組み内容 (2024年度)
④	【木曽山崎団地地区まちづくり構想の改定】 2013年7月に策定した木曽山崎団地地区のまちづくり構想について、多摩都市モノレールの延伸や小・中学校を対象とした新たな学校づくりなど、今後の環境変化を踏まえたうえで、団地居住者や地域住民と将来像を共有しながら内容を改定する。	まちづくり構想の改定	－ (2023年3月)	改定 (2025年3月)	改定に向けた検討・地元説明会等の実施 (2025年3月) 【改善進行中】	木曽山崎団地地区のまちづくり構想改定に向けて、有識者や地元自治会、管理組合等の代表などで構成する「（仮称）まちづくり検討会」発足のための準備を行った。 今後は、検討会を発足し、多摩都市モノレール延伸を視野に入れたまちづくり構想の改定を行う。	7月に「まちづくり検討会」を設置し、「まちづくりワークショップ」や「まちづくりアンケート」を行い、まちづくり構想改定に向けて検討を進めた。 2025年度も引き続き、「まちづくり検討会」及び「まちづくりワークショップ」を開催し、構想素案をとりまとめ、市民意見募集を経て、2026年3月に構想改定を行う。